

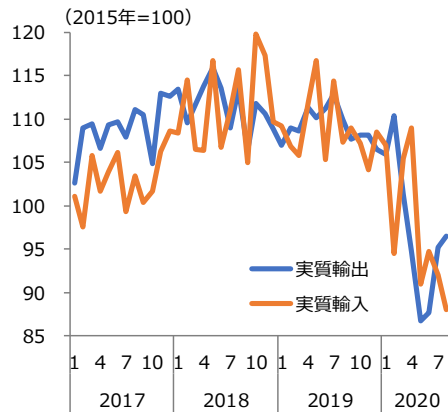
日本

貿易統計 (2020年8月)

輸出は5月を底に回復も、コロナ前の水準を1割程度下回る

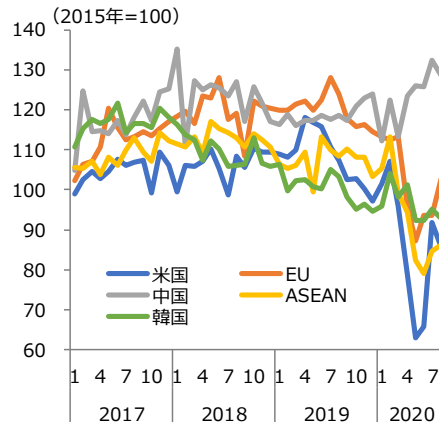
政策・経済研究センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入

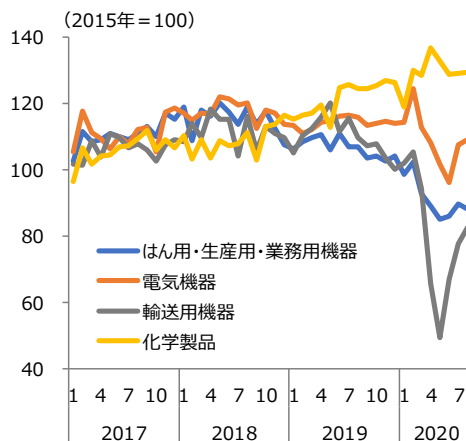


注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

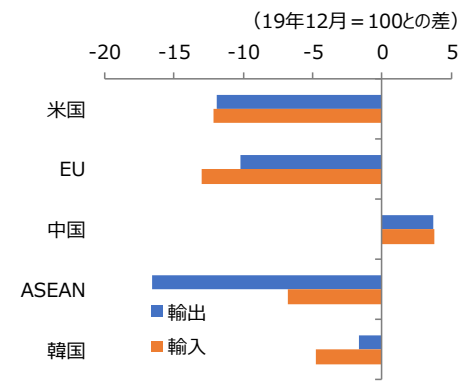


3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 実質輸出入のコロナ前との比較



注：20年8月とコロナ前（19年12月=100）との比較。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 20年8月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+1.4%、実質輸入は、同▲4.4%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、+3,506億円。輸出は海外経済活動の再開により、5月を底に回復も、依然として低水準にある。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、米国向けは前月の大幅増の反動から▲6.7%と減少に転じた（図2）。2カ月連続で大幅に増加した輸送用機器が同▲7.8%と減少に転じ、幅広い財が減少した。中国向け（同▲2.9%）は減少も、他国に比べ経済活動の回復が早いことから、コロナ前の水準を上回っている。各国・地域ともに、経済活動再開で需要は持ち直しているが、中国を除き低水準にある。
- 品目別では、はん用・生産用・業務用機器を除き増加（図表3）。ただし、伸びは鈍化した。各国の経済活動抑制により大幅に落ち込んだ輸送用機器は、6月以降持ち直しているが、コロナ前の水準を2割程度下回っている。
- コロナ前（19年12月）と比較した各国の実質輸出入は、中国を除きコロナ前の水準には回復していない。特に、コロナにより経済活動が大幅に縮小した欧米・ASEANの輸出入の落ち込みが大きい（図表4）

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外の経済活動再開にあわせ持ち直しつつあるが、新型コロナウイルス感染症拡大による海外需要の縮小から、低水準にとどまっている。
- 先行きも、低水準での推移を予想する。各国の経済活動は20年4月・5月をボトムに再開しており、海外需要の回復に合わせ輸出は持ち直している。ただし、当社の試算では、世界のGDPがコロナ前（19年末）の水準まで回復するのは21年末を見込んでおり、海外需要が縮小した状況は続く。感染拡大が継続している状況では、海外需要の本格回復は見込みにくい。
- さらなる下振れリスク要因は、国内外での感染急拡大や重症者等の急増による、各国の防疫措置の一段の厳格化だ。このリスクが顕在化した場合、各国の経済活動は再び縮小し、海外需要が縮小、国内外の生産・物流も停滞し、輸出の停滞はさらに長期化するだろう。